

平成26年度 特別支援教育総合推進事業
第2回石狩管内特別支援連携協議会の概要



平成26年度第2回石狩管内特別支援連携協議会を平成27年2月19日（木）に道庁別館西棟3階1号会議室において開催しましたので、その概要をお知らせします。

本協議会では、はじめに、事務局から「平成26年度 石狩教育局 特別支援教育に関する活動報告」を行い、今年度の石狩教育局における、特別支援教育の充実に向けた取組についての報告を行いました。

その後、事務局から「個別の教育支援計画（石狩モデル）」（案）について説明し、作成・活用についての協議を行いました。

<協議の柱>

～「個別の教育支援計画（石狩モデル）」の作成・活用について～

各委員からの主な意見

【小学校から】

- 「個別の教育支援計画」作成については、通常の学級における特別な教育的支援を必要とする子どもへの作成が課題である。保護者の同意が得られず作成が進まないケースもあることから、今後、活用例を示すなどして、作成することの効果分かる啓発資料を作成してもらいたい。
- 「個別の教育支援計画」を活用した、学校間の連携は大切である。しかし、特別支援教育についての専門性が低い教員も多いことから、「個別の教育支援計画」を作成することが難しいこともあるので、誰が見ても分かりやすい記入例を作成してもらいたい。

【高等学校から】

- 高等学校においても、近年、発達障がい等の特別な教育的支援を必要とする子どもの在籍数が多くなっている。このような状況において、中学校からの引継ぎが重要である。入学者選抜において、障がいの有無が合否に影響することはないことから、「個別の教育支援計画（石狩モデル）」などを活用し、中学校との連携の充実を図る取組を進めてもらいたい。

【保護者から】

- 「個別の教育支援計画」の活用にあたっては、教員の専門性の向上が必要であることから、各学校において、特別支援教育に係る校内研修の充実を図ることが大切である。また、どの校種においても、同じように保護者への対応ができるよう「個別の教育支援計画（石狩モデル）」などを活用し、学校間の引継ぎの充実を図ってもらいたい。

【関係機関から】

- 児童相談所においては、子どもとの関わりよりも、保護者との関わりが大きいことから、親子関係が分かるような記載を記入例で示すなどする必要がある。また、保護者の中には学校とは別の機関に相談したいという方もいる。他の機関で相談を受けるときには、「個別の教育支援計画（石狩モデル）」などが重要なツールとなるので、各学校において作成を進めてもらいたい。

<確認されたこと>

- 「個別の教育支援計画」を作成した教員は、その幼児児童生徒が、学校間で引き継いだ後にどのように成長したのかを確認するなどの双方向での引継ぎが大切である。引き継がれた幼児児童生徒が、その後、どのように発達したのかをみとることで、教員は担当する幼児児童生徒の指導や支援について責任をもつことができる。
- 「個別の教育支援計画」を作成し、活用することとおして、引き継いだ教員も、引き継がれた教員も相互に学び、自分自身の指導や支援について、もう一度考えることができる。つまり、教員にとっても、子どもにとっても、「個別の教育支援計画」は、指導や支援の充実を図るための重要なツールとして活用できる。